

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真	GT
山行番	NO. 1855	
日時	2020/02/16~17	
山域	松本・アルプス公園(743m)・上高地(約1500m)	
参加者	GT, KH, SS, SA, HT, KY, GM, TY=計8名	

1日目 02月16日(日) 雨

長泉6:00-アルプス公園10:16-散策-展望台10:58-休憩館(昼食) 11:15~50-カモシカ・スポーツ-中の湯旅館16:00(泊)

2020、恒例のジジ・ババの「山楽会」(楽山・楽湯・楽酒)。今年は、松本の芥子望主山(けしぼうずやま・892m)と上高地散策。芥子望主山とは、変わった山名。本来、芥子望主山は、芥子坊主山だが、2万5千円は、望主山の表記。

芥子坊主の意味は、1. ケシの果実。阿片(あへん)はケシの未熟な果実から採取される。同じケシ属でも、オニゲシ、ひなげしなどには、あへん成分はほとんど含まれていない。2. 江戸時代の少年少女の髪型。3~4歳の子供が結う(詳細は下に)。すずしろ、お芥子とも。

梓川SICで降りて、松本トンネルを潜り山に向かう。ところが、芥子望主山は、登山口がハッキリせず、道路が山頂付近まで上がり、ガッカリしてしまった。代わりに、芥子望主山から続く、アルプス公園に向かった。アルプス公園最高峰は、標高743m。晴天なら、松本盆地の向こうに雄大なアルプスが望まれる。

公園駐車場から、長い階段を上り公園内を散策。公園は広大な敷地で、人工の川や池、滑り台、休憩舎、ポニー、ヤギ、桜並木とか、家族・子供向けの公園だった。桜が咲くころは、素晴らしいところになるだろう。



一回りして、立派な休憩建屋で昼食。中には託児所もあった。しかも、ほとんど来訪者が訪れないこの冬に係員が詰めていた。松本市は財政が豊かなのか。

午後、アルプス公園を後にする。梓川を渡り、下道で「カモシカ・スポーツ」に向かう。店は最近、経営改革で店長のYさんが代わった。Yさんは現在、何故か居酒屋をやっている。店名は「酒と雪」。(昔、

「岩と雪」の雑誌があったが。笑) 酒と山が好きな人の名前だ。場所は、松本城南の「華のうら町・夢屋台・はしご横丁」。いかにも、のん兵衛が集まりそうな所。一度は訪れてみたいものだ。

店で S さんがローバ(老婆・老爺??!!)の登山靴を買った。前回、といっても十数年前、(2006年秋)だが、やはりここで革登山靴を購入した。その靴が、大分傷んだので、今回新調したわけ。正価格は、31000-。型がやや古いせいか、ちょっと安くなっていた。

買い物終了後、上高地・中の湯に向かった。外は、この厳冬期で雨だった。過去、冬山で何回か雨に降られたことはある。しかし、それは本当に稀で、今年のように継続的・何回も・年中は珍しい。



中の湯旅館

林道の雪は、確かに少なかった。乗鞍岳入口手前右の滝は例年、凍っているが今回はザーザー流れていた。中の湯は久しぶりだった。裏山の雪は、マアマアの感じだった。夕食は18時から。それまでゆっくり過ごした。この温泉は、やっぱり素晴らしい。雨で露天から穂高が見えず残念。

2日目 02月17日(月)曇り時々晴れ

起床5:00-朝食7:00-釜トンネル発8:15-大正池9:12-田代橋-河童橋10:40~11:15(昼食)-釜トンネル13:29-中の湯(温泉)-長泉19:15

翌日、雨は止んでいた。食堂から青空が見えた。雨でなければ良い。宿のバスで釜トンネルまで送って貰う。「おいらく山の会」の人たち9名も一緒だった。バスに食堂の出前箱があったので運転手に聞いたら、「釜トンでゲート番をしている方の朝食」といった。

釜トンネルは、全長1310mある。傾斜が強く、上りは息が切れる。電灯が点いていないので真っ暗。ヘッドランプがないと歩けない。でも、今は歩きやすい。昔は湧水があり、冬は凍って怖かった。そもそも、1984年当時は、上高地に入るに沢渡から歩いた。釜トンまで約7km。標高差は300m強。そこを冬山の重荷30kgで上り、1日目のテント泊は横尾だった。

それに比べれば、今は楽だ。そんなことを思い出しながら上って行く。釜トンネルを抜けると、上高地トンネルがある。以前はなかった。こちらは590m。短いので明るいのに、何故か灯りが点いている。むしろ釜トンネルに明かりが欲しいのに。おかしい。トンネルを抜けた所でアイゼンを装着。「おいらく山の会」の方と会話。県連のネームプレートで静岡と分かったらしい。





釜トンネル内



上高地トンネル



先の林道はガジガジの氷道。降雪が少ないので、氷が発達している。氷道をガシガシ行く。程なく私の左アイゼンの止め金が外れてアイゼンがブラブラになった。止め金は探してもなかったの、しばらく片足で上った。その後、Kが片足を貸してくれた。

大正池に到着。穂高はガスで見えない。写真を撮る。林道を降りて、池沿いの散策路を進む。トレースがあって歩き易い。



大正池



散策路





梓川から前穂高岳

梓川の堤防を歩く。途中、田代橋がある。冬季用トイレがあった。有難い。橋から対岸も行けるが、そのまま前進。梓川に向こうの穂高連峰が見え隠れ。前穂は見たが、奥穂はなかなか出ない。少し晴れている間、写真撮影。梓川の河原に降りるのにラッセルが深く難儀。



堤防をなおも進む。時々、落とし穴がありズボズボ落ちる。やっぱり暖冬だ。河童橋が見えた。釜トンから2時間半ほど。人影は平日・コロナでまばら。橋を渡り土産店の軒下で昼食。マイナス10度くらいで、手がかじかんだ。あまりゆっくりは出来ない。





河童橋

昼食が終わるころ、「おいらく山の会」が到着した。随分、ゆっくりだった。  
帰路は、概ね往路を戻った。何故か足早。早く中の湯で温泉に浸かりたい心理か。途中、林道を下っていたら、ご夫婦に抜かれた。ただ、女性は右腕を吊っていた。仲間に聞いたら、「怪我のようだ」とのこと。追いついて聞けば、転倒して骨折という。骨折って、どうして分かりましたかの問いに、「腕がブラブラ」といった。



時々、落とし穴



帰路



応急手当がしっかりしていないので、日赤の講習を受けているKが中心になって再手当。Tさんが、三角巾を提供してくれた。事故者は、双方ともアイゼンを履いていなかった。平湯から来たという。アイゼンは？の問いに、「持って来るのを忘れた」という。

しかし、この半端でない氷道をアイゼンなしは考えられない。上高地トンネルで止めるべきだった。自業自得。この程度の怪我で良かったが、大きな事故だと皆に迷惑が掛かる。初心者は、そのあたりが甘い。



焼岳が見えた

大正池で焼岳が見えた。青空が美しい。上高地トンネルでアイゼンを脱ぎ、釜トンで中の湯に携帯。迎えを頼む。釜トンは真っ暗。傾斜が強いのでグングン下る。ゲートで借りたストック1本返却。中の湯で降雪の中温泉。500ー。山を下れば里は、春爛漫だった。いい山旅だった。皆に感謝。

(了)



釜トン出口







